

## 九州天皇家論 3章 仁徳天皇

### 小倉の恋の物語

# 仁徳陵は小倉南区

仁徳天皇は九州に住んでいた。当然、その陵も九州に造られたであろう。大阪府堺市百舌の仁徳陵は残念ながら仁徳陵ではない。真の仁徳陵は北九州に存在する。

六十七年の冬十月に、河内の石津原に幸して、陵地を定めたまふ。十八日に、始めて陵を築く。是の日に、鹿有りて、忽ちに野の中より起りて、走りて役民の中に入りて倒れ死ぬ。時に其の忽ちに死ぬることを異びて、其の傷を探む。即ち百舌鳥、耳より出でて飛び去りぬ。因りて耳の中を視るに、ことごとくに昨ひ割き剥げり。故、其の所を号けて、百舌鳥耳原と曰ふは。其れ是の縁なり。(仁徳紀)

仁徳の陵の場所は「百舌鳥耳原」である。この名の由来が上記の説話である。地名は「河内の石津原」である。この地には「津(港)」があった。河内の石原の津に仁徳天皇の陵が築かれた。では、仁徳の時代、「河内」とはどの地域をさすのか。

## 神武天皇家の「河内」は小倉南区

神武天皇家の「河内」とは、神武東征の際、苦戦の果てに征服した国である。仁徳天皇は神武を始祖とする九州天皇家の天皇である。神武記の「河内」と仁徳記の「河内」は同じである。「河内」とは小倉南区を流れる竹馬川、大野川、貫川、朽網川の四本の河川の流域をいう。ここに、「仁徳陵」が造られた。小倉南区(河内國)には多くの天皇陵が存在する。

## 「河内國」に存在する九州天皇家の王墓

古事記の記録から、「河内國」に存在する天皇陵を取り上げてみよう。

5代孝昭・・・河内國・腋上博多山之陵  
倭建・・・河内國・志磯  
14代仲哀・・・河内國・恵賀  
15代応神・・・河内國・恵賀  
16代仁徳・・・河内國・毛受の耳原  
17代履中・・・河内國・毛受の耳原  
18代反正・・・河内國・毛受の耳原  
19代允恭・・・河内國・恵賀  
21代雄略・・・河内國・多治比の高鷲

日本書紀は、「仲哀陵」は「河内國の長野陵」と記録している。中世の荘園地図によると、小倉南区は「横代別符」「長野庄」「曾祢庄」「貫庄」「朽網村」に分かれている。

下の荘園地図の「長野庄」が、日本書紀が伝える「仲哀陵」の「河内國の長野」である。大阪にも「河内長野市」がある。宮内庁HPによると、「仲哀陵」とはこの「河内長野市」の隣、「藤井寺市」の藤井寺四丁目に存在する古墳を「仲哀陵」と比定している。だが、「藤井寺市の長野陵」では、日本書紀が記述する「河内國の長野陵」とは一致しない。

香春町に都を構えた神武以来、九州天皇家で、「河内」とは小倉南区である。小倉南区には「長野」が存在した。これが「河内國の長野」である。

小倉南区には九州天皇家の天皇陵が、九つ(倭建の白鳥陵を含む)存在する。



## 「河内」は「熊襲」の支配下

だが、「河内(小倉南区)」に存在するのは九州天皇家の陵だけではない。この「河内」には神武以前の歴史がある。神武天皇が進出した時、そこにはすでに強力な国家が存在した。その国家の王は熊襲である。九州天

皇室は神武天皇に始まるが、神武天皇は後発の王朝である。神武東征以前、この地は熊襲の統治下にあった。小倉南区には下吉田古墳群が存在する。これらの古墳群は熊襲の王一族の古墳であろう。

## 小倉南区の古い歴史

小倉南区の古墳について、内倉武久氏の研究がある。遺跡測定に用いられている方法は、「放射線炭素(14C)」による年代測定というものである。

- (a) 北九州市小倉南区東貫二丁目の潤埼遺跡の埴輪窯業跡は、近くの曾根古墳群の埴輪を焼いた窯跡で、近畿での埴輪の編年では「六世紀末から七世紀初め」(川西編年Ⅴ期新相)のものという埴輪が出土した。窯跡に残る炭化物二個の測定値は、

三一〇年±一七五年(六〇〇年前後)

三六〇年±一七五年(六〇〇年前後)

という。川西さんの編年は手堅いことで知られており、信頼を集めている。しかし、北部九州ではこの編年は適用できないことを示唆する測定値かもしれない。ちなみに考古磁気法による窯に焼け土の年代測定値は「四一〇年±一五年」だったという。いずれの測定値も、考古学的判定よりはるかに古い。

- (b) 弥生時代中期中ごろの集落遺跡という北九州市小倉南区の重留遺跡貯蔵穴にあった炭の測定値も、紀元前二七〇年±一七五年(弥生時代中期、紀元前一〇〇年前後)。これも土器(須玖Ⅰ式)による年代判定とは百五十年以上の違いがありそうだ。いずれの調査員も、土器形式の見分けに関してはプロである。見まちがうことはまずない。古墳時代の測定値は極めて少ない。少ないがその差は大変なものである。

以上の二つの遺跡は小倉南区の遺跡に関するものである。内倉氏は伝統的な考古学を基にした年代判定を用いず、木材や炭化米に取り込まれた放射性炭素の残量を測定して年代を判定する。それによると、小倉南区の重留遺跡は、紀元前二七〇年±一七五年である。これは神武東征より遙かに古い。

記紀に「河内」と記載される場所は、現在でいえば、小倉南区・長野・曾根・貫・津田・田原・朽網・吉田である。竹馬川、大野川、貫川、朽網川の流域に開けた扇状地である。まさしく、河内といえる。「中州」とも書かれた土地である。この地方から発掘される遺跡は多く古墳も多い。

曾根の平野は北の足立山、西の貫山、南の水晶山系、東の周防灘に面しています。河川は竹馬川、大野川、貫川、朽網川と四本の河川が、周防灘に流れ込んでいます。古くから開けた平野で、元々は今よりずっと海が山に迫っていて入り江で小さな島が沢山あったとお年寄りから言い伝えを聞いたことがあります。貫山の土砂が、だんだんと堆積して平野が広がっていったもの、と思われます。下貫、貫城跡の丘陵地の谷間の付近の地下を掘るとトベ土に貝殻片が出てきます。貝塚ではなく、この付近まで海が迫っていた時代もあったと思います。又、長野の先の蜷田付近まで入江であったとの伝えもあります。おおよそですが、旧中津街道沿いより東側、次にJR日豊本線沿線より東側は海だった頃が、あったと思われます。中曾根4丁目付近の地下数メートル掘るとトベ土に貝殻の欠片が、沢山出てきます。  
(HP「企救の里」)

この土地の方が編集されているHPがある。HP「[企救の里](#)」には小倉南区の古墳・遺跡が掲載されている。これを拝見させて頂きましょう。御覧のように数多くの古墳が存在する。

ここは神武東征の舞台でもあった。長野城趾は、神武と「倭國」の王、「梟師(タケル)」とが激戦を繰り広げた丘である。後に、神武天皇が国見したので「國見の丘」と呼ばれるようになった。この丘から、竹馬川が見える。

神武はこの川の流れを交尾する蜻蛉と喩えた。また、景行天皇が土蜘蛛を征服した時、勝利を祈願した大岩がある。「帝踏石」と呼ばれる大石である。景行天皇が土蜘蛛を退治して、その体を三つに切って埋めたと伝えられる「上塚」「中塚」「下塚」も存在する。

小倉南区は九州天皇家の都だったのである。記紀が伝える九州天皇家歴代の河内・天皇陵はここに存在する。

# 小倉南区の九州天皇家陵と遺跡



([www.geocities.jp/kikunosato2005/index.html](http://www.geocities.jp/kikunosato2005/index.html))

## 小倉南区に存在する古墳一覧

| 河内地区 | 古 墳 名                             | 形 式                       | 造営時期 (?)         | 特 徴                                                  |
|------|-----------------------------------|---------------------------|------------------|------------------------------------------------------|
| 長野   | 観音寺古墳<br>下長野古墳群<br>上長野石棺群<br>白山古墳 | 円墳?<br>円墳一号二号<br>二基<br>円墳 | 6世紀後半<br>5世紀     | 20m・埴輪なし・一基単独<br>一号8m・長野川中流域左岸<br>古墳時代前期・石棺墓<br>100m |
| 曾根   | 荒神森古墳<br>丸山古墳<br>円光寺古墳            | 前方後円墳<br>前方後円墳<br>前方後円墳   | 6世紀中頃<br>6世紀中～後半 | 68m・陪塚3基の小墳・<br>50m・多量の円筒埴輪<br>42m・埴輪                |

|    |                                                    |                               |                                             |                                                                                                 |
|----|----------------------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | 大塚古墳                                               |                               |                                             | 消滅                                                                                              |
| 田原 | 畠山古墳<br>松塚古墳                                       | 前方後円墳                         | 6世紀中葉前後                                     | 44m・埴輪・田原低丘陵<br>消滅                                                                              |
| 貫  | 上ん山古墳<br>茶毘志山古墳<br>高島古墳<br>西岡様古墳<br>御座古墳群<br>下貫石棺群 | 前方後円墳<br>前方後円墳<br>不明<br>前方後円墳 | 6世紀前半<br>5世紀後半<br>6世紀中頃<br>古墳時代後期<br>4世紀後半～ | 51m・陪塚小円墳・円筒埴輪<br>54m・シャモジ形・埴輪・初期<br>埴輪・装身具多数<br>27m・円墳を伴う<br>22m・三角縁獣文帯鏡・円墳3<br>古墳は6世紀後半と推定される |
| 朽網 | 山田古墳群<br>雨窪古墳                                      | 円墳                            | 6世紀後半                                       | 水晶山系の丘陵先端に二基、他有<br>横穴式石室                                                                        |

以上は、北九州市が行った発掘調査をまとめたものである。この中に、九州天皇家の仁徳天皇の「河内・石原津」の陵が存在する。

## 仁徳陵は「荒神森古墳」と推定

「荒神森古墳」・「丸山古墳」・「円光寺古墳」……………これらの三つの古墳はほぼ同じ場所である。これらの古墳は、現代地図で見れば、曾根平野の真ん中に位置する。現在は海岸線からかなり内陸部に入っているが、古代、この辺りは、海岸線が「日豊本線」あたりにあったといわれる。そうすると、この三つの陵は「石津」という地名に相応しい場所ではないだろうか。では、この三つの古墳の調査報告を見てみよう。

## 荒神森古墳

北九州市教育委員会の説明によると、現代は曾根平野のほぼ中心部に位置しているが、この古墳が造られた当時の海岸線は日豊本線あたりにあったと考えられることから、周防灘を間近に望んで造られたものであろう。

市内最大の前方後円墳であり、全長68メートル、前方部幅・後円部経はいずれも約41メートルである。後円部が大きく前方部が短いため、全体の均整はとれていない。周濠と周提帯をもつが、現代大半が埋められてしまっている。発掘調査は行われていないため内部主体は不明であるが、墳丘上には円筒埴輪列を数段巡らせていたらしくその破片が採集される。その他には、人物や家型の形象埴輪が採集された事がある。

本墳の近くには、東南側にトントンの森・カンカンの森と呼ばれる二基、北側に一基の小墳があったと伝えられており、死者の近親や従臣を葬った陪塚と考えられているが、いまはない。墳丘の形態や発見された埴輪片、須恵器などから、六世紀中頃に造られた古墳と考えられている。



## 円光寺古墳

円光寺古墳は荒神森古墳の南約250メートルに位置し、小倉南区中曽根3-6-3の浄土真宗円光寺 境内下に埋没しています。以前から前方後円墳だと考えられていましたが、今回の調査で全長約42メートルの前方後円墳であることが明らかとなりました。内部主体は未調査のため明らかではありません。埴輪は、後円部北西側から甲冑の一つである挂甲と呼ばれる小札を革紐で結んでいった甲状の長方形格子線文の武人形埴輪片、馬形埴輪の頭部片身片、家形、埴輪片、後円部南東側から家形埴輪、前方部西側隅角部から猪形埴輪の鼻先部分などが出土しています。猪形埴輪は九州では珍しく、北九州市で初めての発見です。



## 丸山古墳

太平洋戦争前頃まで、全長50メートル前後の墳丘が見られたが、戦時中に曾根飛行場建設の際、削平されて、中から鉄刀など出土したと伝えられる。昭和57年 曾根郵便局庁舎建設の為、道路を隔てた西側部分が発掘調査され、区域内より多量の円筒埴輪片が南北50メートルにわたり検出された。前方後円墳の可能性が強く、荒神森古墳と同じく六世紀中葉～後半に造られたと比定される。



- (1) 古事記が記す「河内」とは小倉南区である。
- (2) 「河内」には九州天皇家歴代の宮と王墓が存在した。
- (3) 「河内・石津原(毛受の耳原)」には「16代・仁徳」「17代・履中」「18代・反正」、3代の天皇陵が存在した。
- (4) 「仁徳陵」「履中陵」「反正陵」の河内陵墓は曾根平野に三基並ぶ「荒神森古墳」「円光寺古墳」「丸山古墳」であろう。